

学生のための企業見学会実施と地域企業支援

Conducting factory tours for university students and supporting regional companies

松井 純、上井 大輔、加藤 貴也（三重大学社会連携研究センター）

Matsui Jun , Uei Daisuke , Kato Takaya

(Mie University Community-University Research Cooperation Center)

I. はじめに

1. 相互友好協力協定との関連

三重大学はH24年10月現在、朝日町、伊賀市、尾鷲市、亀山市、津市、志摩市、鳥羽市、四日市市、鈴鹿市、伊勢市、三重県と相互友好協力協定を結んでいる。

本協定の主旨を踏まえ、地域に人材を残し地域の産業の活性化に役立てるために、社会連携活動の中で三重大学学生が特徴ある技術を持つ、将来的に有望な地域企業を在学中に知る機会を作ってきた。

地域の中小企業や小規模企業にとって一人の人材確保が大きな影響を持ち、人材投入によって下請け型企業から自社製品開発型企業になる可能性もある。また、入社後に毎年連続雇用が生まれたり、研究室との強い連携が生まれたりするなどの効果もあり、大きな意義がある。

2. 伊勢市産業部との連携に始まる

(株)三重TLOが起業したH14年2月に、伊勢市が特別会員となり、伊勢市産業部との産学官連携活動が始まった。伊勢市側は商工労政課が窓口となり、三重大学地域共同研究センター（現、社会連携研究センター）が間に入り、三重大学学生による企業見学会を企画した。その際に、①学生の参加は有志とし、各学部から集めること、②伊勢市への往復には伊勢市所有の2台のバスを用いること、③企業訪問および伊勢市工芸指導所での企業からの説明会を実施すること、等が決められた。第1回伊勢市内企業見学会には、生物資源学部、工学部、教育学部等から25名の学生が

参加した。この成果は、ベンチャー企業への学生アルバイト確保（後に社員となる）に留まった。

このような有志での工場見学会は、伊勢市のバスを使って3年間続けられた。

II. 工学部における授業としての工場見学会

三重大学工学部は機械工学科、電気電子工学科、分子素材工学科、建築学科、情報工学科、物理工学科の6学科があり、その内建築学科を除く5学科で工場見学会を実施している。特に機械工学科では、1～3年生時に1泊2日で工場見学を行う。この機械工学科2年生時か3年生時の工場見学会を「伊勢市内企業を紹介する機会にできないか」との要望が伊勢市内企業から寄せられた。また、S社社長からは、「卒業後の就職は都会の企業になったとしても、必ず転機が訪れる。その転職の際に、地元にある企業を知らないと地元企業を選択肢にする事さえない。少なくとも卒業までに地域の企業活動を知ってもらえる機会を作って欲しい」との切実な発言もあった。さらに、「工学部機械工学科の学生が宿泊するのであれば、リゾートホテルに宿泊し、食事を学生と企業の社長や工場長との交流の場にして欲しい。伊勢の地で良い体験をして将来の選択肢の一つとしていただきたい」との具体的な意見も寄せられた。

III. 自治体産業支援部署との協働で進める

1. 工学部企業見学会

各自治体には産業支援や産業振興を担当する産業支援部署がある。一般的に、大学が地

域連携を行う際には連携窓口となる部署である。

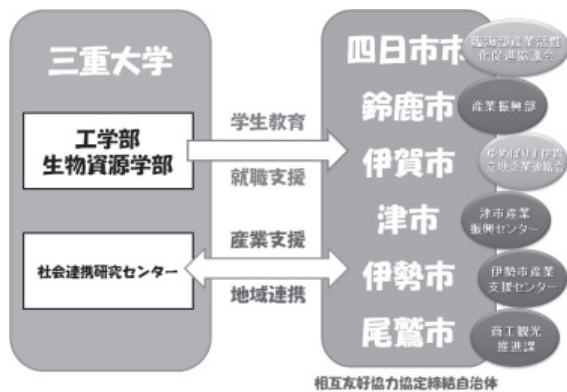


図1 工学部企業見学会と自治体との関係



図2 企業見学会の様子。見学前には全体的な説明(左)、見学後には質疑応答(右)の時間が持たれる。

伊勢市でも産業観光部(産業部の後継部署)に大学との連携窓口を置き、企業見学会について企業との実施内容等のスケジュールを決定している。図1には、H24年までに行った企業見学会の自治体の窓口を記した。鈴鹿市、津市、伊勢市、尾鷲市は市役所職員が直接担当している(伊勢市ではH24年から、伊勢市産業支援センターの指定管理者として、伊勢市商工会議所から派遣された職員が担当している)。

津市では、伊勢市と同様に機械工学科に対して企業見学会を実施している(図2)。三重大学が立地する市である故宿泊する必要がないため、2日連続して実施している。その際、1日目に訪問が不可能な企業を中心とした企業説明会を市内会場にて行い、その後企業の方々との食事会を行っている(図3)。

四日市市では、四日市市商工農水部工業振興課が中心となって作っている四日市臨海部

産業活性化促進協議会(その他構成メンバーは三重県、四日市港管理組合、四日市商工会議所)がバス経費等を負担し、コンビナート企業の要望を受けて、機械工学科および電気電子工学科の学生に対して見学会と説明会を実施している。



図3 津市内企業との食事会にて、社長はじめとした企業の方々との交流(左)。挨拶する(株)三重TL0社長(右)。

2. 伊勢市での企業見学会

表1 企業見学会スケジュールの例(伊勢市)

日時	場所	内容
<1日目>		
12:30	宇治山田駅	移動(見学企業までバスで移動) ※伊勢市産業支援センターで大形バス2台手配
13:15-15:15	A社(機械製造大手)	プレゼンテーション/工場見学
15:50-17:20	伊勢市産業支援センター	企業によるプレゼンテーション3社
18:30-20:30	会員制リゾートホテル	食事会&宿泊
<2日目>		
9:30-11:30	1班:B社(鍛造製造大手) 2班:C社(部品製造)	プレゼンテーション/工場見学
12:00-13:30	おはらい町(伊勢神宮)	昼食(自由行動)
14:00-16:00	D社(外資系認証機関)	プレゼンテーション/工場見学
16:30	宇治山田駅	解散

対象:工学部機械工学科2年生(80名)

表1に代表的な1泊2日での企業見学会例を示した。本例は機械工学科2年生80名の場合である。このような学生80名の見学会はバス2台と説明を行う際に広い部屋が必要となる。社員数が200名以下の企業では、会議室等も狭く、工場内の移動経路も狭小なため、40名以下に人数を制限される場合が多い。本例では、2日目午前中に訪問した企業がそれに当たり、40名ずつの2班に分けて対応した。また、1日目の伊勢市産業支援センターでの企業によるプレゼンテーションでは、40

名でも見学が困難な企業3社が参加した。このように企業の大きさによるハンディを踏まえ、学生にアピールできる機会を作り出す工夫を行っている。

また、表1にあるように2日目の昼食は市内で行う。本例は伊勢神宮近くの「おはらい町」にて学生を自由行動とし、昼食を摂らせた。参加している学生は県外者も多く、伊勢市訪問が初めての場合も少なくない。そこで、地域を文化的な面からも見るができるように、昼休みを90分として、地域の特産物や地場産業に触れることができるように企画している。

またH24年に初めて行った伊賀市内企業見学会では、学生にとって全く馴染みのない地域であったため、昼食時間を多めに取り市内の散策の時間に充てた。一般的には、伊賀市は松尾芭蕉生誕の地として知られ、城造りで名高い藤堂高虎の居城があった。また、最近では忍者の里として、地域興しを行っている。三重県内でも歴史的文化財が豊富な地域である。このような企画も地域の自治体との連携で生まれる。図4は各自治体産業支援部門と社会連携研究センターとの企業見学会までの活動である。企業窓口との交渉は主に自治体関係者が行い、企業への自治体からの支援として位置づけている。

3. 尾鷲市での企業見学会

H23年から尾鷲市では、商工観光推進課が中心となり、企業見学会を実施している。尾鷲市は、この企業見学会を(株)三重TLOに事業として委託している。これを社会連携研究センターと生物資源学研究科が企画運営している。尾鷲における企業ニーズは、水産関係企業への学生の就職である。既に尾鷲市最大の水産加工企業には、水産大学校や高知大学から水産系の学生が就職しているが、三重大学からの入社は未だいない。

三重大学との共同研究など、強固な連携を

行ってきた尾鷲市にとっては、市内企業への学生の就職は念願でもある。

IV. 企業見学会の実施効果と将来

1. 見学したことがきっかけに

H22年度伊勢市で企業見学会に参加した企業には、機械工学科卒業生2名が入社した。この学生らは三重県出身者ではなく県外者である。その後も入社する学生が続いている。

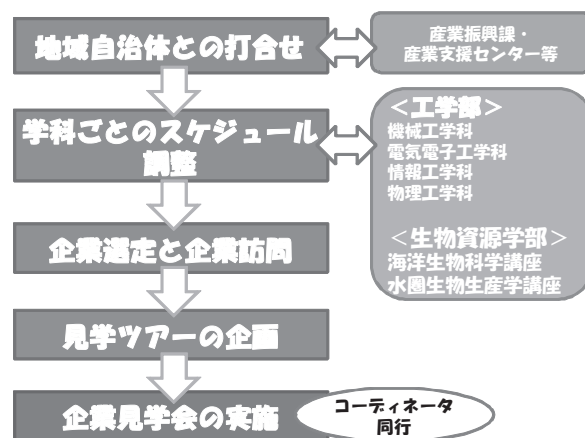


図4 企業見学会までの活動

また、H22年に津市で企業説明会を行った企業に入社した機械工学科卒業生は、H24年度の企業説明会にて、「この企業見学会によって、この企業を知り興味を持って、入社試験を受けました」と見学した学生に語っている。H14年の成果はアルバイト学生の確保でしかなかったが、自治体の産業支援部門および企業の技術者、人事等の方々の年度毎の企業見学会への工夫と改善が実った形である。

2. 現状と将来

表2には、H24年度に社会連携研究センターが支援した企業見学会を示した。工学部では各学科が独自で企業見学会を行っているため、社会連携研究センターで企業の重複をできるだけ避けるように、調整を行っている。しかし、支援を行っていない分子素材工学科分を考え合わせると、今後も地域企業への負担を考えた企業見学会の実施調整が必要であ

る。また学生の成長に合わせて、1、2年生が必要とする見学と3年生が必要とする見学の内容が異なることも大切なポイントである。

こういった課題を抱えてはいるが、今後も企業見学会を「地域企業を理解する場」として位置づけていきたい。

表2 H24年度社会連携研究センターが支援した学生のための企業見学会

実施	日程・企業名	学科(教員)学年・人数	時間	備考
6月	12日(火) ア社(玉城町)	電気電子工学科 3年・45名	12:30 大学発 14:00 現地着 17:30 大学着	三重大学から直接依頼・事前訪問を実施
	26日(火) イ社(伊賀市)	電気電子工学科 3年・45名	12:30 大学発 14:00 現地着 17:30 大学着	ゆめぼりす伊賀立地企業連絡会より依頼・事前訪問に同行
7月	3日(火) ウ社(鈴鹿市)	電気電子工学科 3年・45名	12:30 大学発 13:30 現地着 18:00 大学着	鈴鹿市産業振興部より依頼・事前訪問を実施
	17日(火) エ社(伊勢市)	電気電子工学科 3年・45名	12:30 大学発 13:30 現地着 18:00 大学着	伊勢市産業支援センターより依頼・オ社はプレゼンテーションのみ
	24日(火) カ社(玉城町) オ社(伊勢市)	電気電子工学科 3年・45名	12:30 大学発 13:30 現地着 18:10 大学着	伊勢市産業支援センターより依頼・キ社はプレゼンテーションのみ
8月	3日(月) カ社(伊勢市)	理工工学科 3年・40名	12:30 大学発 14:00 現地着 17:00 大学着	伊勢市産業支援センターより依頼
	4日(火) エ社(伊勢市)	電気電子工学科 3年・45名	12:30 大学発 14:00 現地着 17:00 大学着	伊勢市産業支援センターより依頼
	11日(火) キ社(志摩市)	電気電子工学科 3年・45名	12:30 大学発 14:30 現地着 18:30 大学着	津市産業振興センターより依頼・事前訪問に同行
9月	18日(火) 7社(尾鷲市)	生物資源部 3年・21名	8:00 大学発 10:00 会場着 17:00 現地発 19:00 大学着	尾鷲市商工観光推進課より依頼
	19日(水) 3社(伊賀市)	情報工学科 3年・60名	13:00 大学発 14:00 現地着 17:30 宿泊所	ゆめぼりす伊賀立地企業連絡会より依頼・事前訪問を実施
	20日(木) A班:2社 B班:2社(伊賀市)	情報工学科 3年・60名	8:20 宿泊所発 15:30 現地発 16:30 大学着	上野市駅前での自由行動(昼食) 19日プレゼンテーション 20日工場訪問
	20日(木) 5社(津市)	機械工学科 2年・80名	13:45 講演会 17:20 懇親会 19:30 終了	津市産業振興センターより依頼・津市による経費負担
	21日(金) 午前:ク社 午後(A班):ケ社 午後(B班):コ社 (津市)	機械工学科 2年・80名	8:30 大学発 12:00 昼食 16:40 大学着	津市繁華街にて自由行動(昼食) 20日プレゼンテーション 21日工場訪問
	26日(水) 4社(伊勢市)	機械工学科 2年・80名	12:30 宇治山田 18:30 宿泊所	伊勢市産業支援センターより依頼・伊勢市による経費負担・キ社、オ社、コ社はプレゼンテーションのみ
	27日(木) 午前(A班):サ社 午前(B班):シ社 午後:ス社(伊勢市)	機械工学科 2年・80名	8:30 宿泊所発 12:30 昼食 16:30 宇治山田	伊勢神宮おはらい町にて自由行動(昼食)
11月	22日(木) セ社(津市)	理工工学科 3年・40名	13:00 大学発 13:30 現地着 16:00 大学着	津市産業振興センターより依頼・事前訪問に同行
	22日(木) 6社(四日市市)	電気電子工学科 3年・45名	9:30 AMIC 10:40 見学会 16:20 終了	四日市臨海部産業活性化促進協議会主催・経費負担
1月	18日(金) ソ社(鈴鹿市)	理工工学科 3年・40名	13:00 大学発 14:00 現地着 16:00 大学着	鈴鹿市産業振興部より依頼・事前訪問を実施
	18日(金) 5社(四日市市)	機械工学科 2年・80名	9:30 AMIC 10:40 見学会 16:20 終了	四日市臨海部産業活性化促進協議会主催・経費負担